



SB117-8



SB117-9



SB117-11



SB117-12



SB117-15



SB117-16



SB117-17



SB118-1



SB118-2



SB118-3



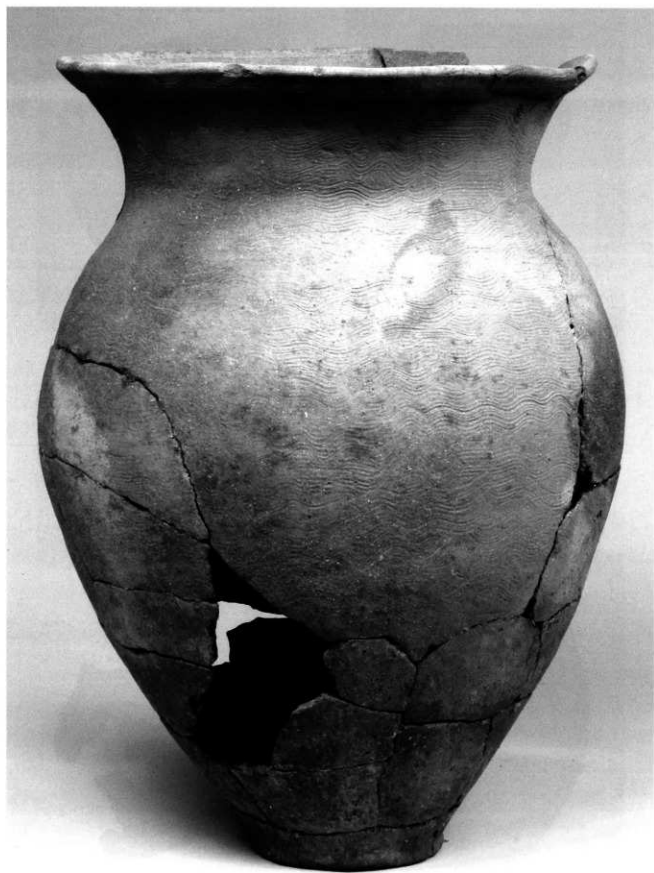
SB118-4



SB118-6



SB118-7



SB118-5

写真図版 31



SB118-8



SB118-9



SB118-12



SB119-1



SB119-2



SB119-6



SB119-4



SB120-9



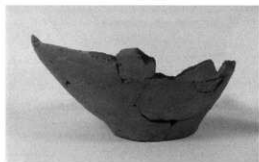
SB120-14



SB120-10



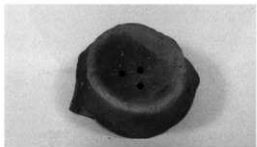
SB120-13



SB120-23



Sb120-24

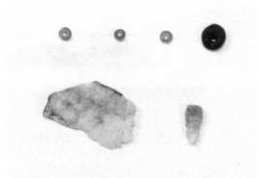


SB120-26



SB120-27

写真図版 33



SB120-1 ~ 4 ほか



SB123-1



SB123-2



SB123-5



SB123-6



SB123 炉体土器



SB125-1・2



SB125-3



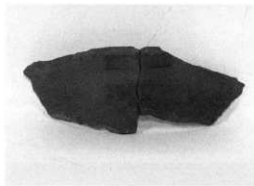
SB125-6



SB125-7



SB125-9 (天地逆)



SB126-1



SB126-2



SB126-3



SB126-7



SB126-8



SB126-9



SB126-10



SK124-1 (天地逆)



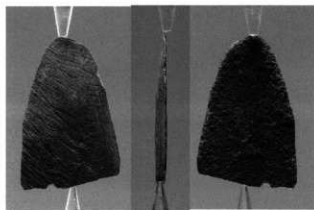
SK124-2



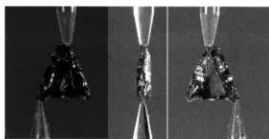
SK124-3 (天地逆)



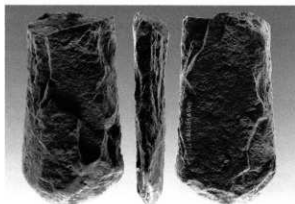
SK124-4



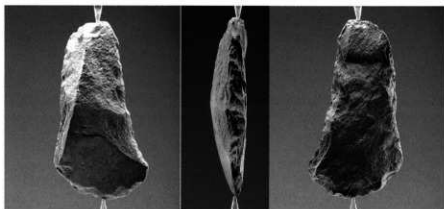
第 108 号 竪穴建物跡出土石器



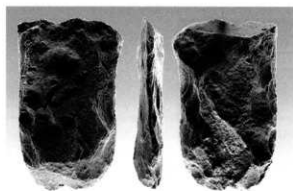
第 120 号 竪穴建物跡出土石器



第 99 号 竪穴建物跡出土石器



第 109 号 竪穴建物跡ビット内出土石器



第 109 号 竪穴建物跡出土石器

上田市文化財調査報告書第112集

常入遺跡群 下町田遺跡VI

国立大学法人信州大学ファイバーイノベーション・
インキュベータ棟 及び先進植物工場研究センター
建設工事に伴う常入遺跡群下町田遺跡第6次発掘調査報告書

発行 平成23年3月25日

発行者 国立大学法人信州大学

上田市

上田市教育委員会

印刷 中沢印刷株式会社

報告書抄録

ふりがな 書名	ときりいせきん しもちだいせき ろく 常人道跡群 下町田遺跡VI		
副書名	一国立大学法人信州大学ファイバー/インペーション・インキュベータ棟及び先進植物工場研究センター建設工事に伴う常人道跡群下町田遺跡第6次発掘調査報告書一		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第112集
編著者名	久保田敦子・中沢徳十・和根崎剛		
編集機関	上田市教育委員会 (事務局:文化振興課 文化財保護係)		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号 電話0268(23)6361		
発行年月日	平成23(西暦2011)年3月25日		

所収遺跡名	所在地	コード		調査期	発掘調査面積(m ²)	調査の原因
		市町村	市遺跡番号			
ときりいせきん 常人道跡群 しもちだいせき 下町田遺跡	上田市常山 三丁目 15番1号	28212	上山 57	20091027 ～ 20100112	約1,400m ²	国立大学法人信州大学 繊維学部校舎(ファイ バー/インペーション・イン キュベータ棟及び先進植 物工場研究センター)建 設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	検出遺物	特記事項
常人道跡群 下町田遺跡	集落跡	弥生時代後期、 古墳時代中期	竪穴建物跡26、 土坑70基、 配石溝1基	縄文土器片(中 期)、弥生土器 (後期)、土師器 (古墳時代前期・ 中期)、土師器 片・須恵器片(平 安時代)、石器 (石鏝(黒曜石 製)、打製石斧、 打製石鏃、すり 石、たたき石、石 包丁)、土製紡錘 車、土製円盤、 ガラス小玉、土製 有孔玉、陶磁器 (近世以降)	

要約	<p>本遺跡は弥生時代後期の集落跡で、これまでに5回の発掘調査を行っており、本書は第6次調査報告書である。</p> <p>竪穴建物跡や土坑が検出され、箱清水式土器が出土した。建物跡は第2次調査で検出された井戸の周辺に密に分布し、その規模から大・中・小の3つに類型化できそうである。また、出入口に関連するとみられるピットが所在する建物跡が多い。竪穴建物の廃絶後に火を焚いて集石を形成する行為が2軒で認められ、それらの遺構からは、土器片やガラス小玉などが出土した。土坑は時期を特定できるものが少なく、掘立柱建物跡と認定できるものも無かったが、全て弥生時代以降の所産と考えた。配石溝は第4次調査の折に見えられた遺構と同一のものと推定されるが、所属時期は明らかではない。</p> <p>出土した箱清水式土器は弥生時代後期の終末期のものと考えられ、器台が一定の割合で土器のセットに含まれるようだ。北陸や関東北西地域の土器の影響が少なからず見られるが、これまでの調査で確認されているS字口縁の甕は、今回の調査区では確認できなかった。また、古墳時代中期の上師器が数点まとまって出土した。縄文土器や平安時代の上師器・須恵器もわずかに出土した。</p> <p>石器は遺構に伴うものがほとんどであるが、遺構外からは縄文時代の打製石斧も出土した。SB120の黒曜石の打製石鏃は床面直上からの出土であり、弥生時代後期の所産である可能性が高い。石包丁は小型のもので、半分に割れている。金属製品は検出されなかった。</p> <p>土製紡錘車や土製円盤が特定の建物跡からまとまって出土しており、注意される。</p>
----	--